

3 問題

空間内に同一平面上にない4点O, A, B, Cがあり, $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$, $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ に対して

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a}$$

をみtas。辺OA, OB, OCの中点をそれぞれD, E, Fとし, 辺AB, BC, CAの中点をそれぞれL, M, Nとする。3直線DM, EN, FLは1点で交わることを示せ。また, 6点D, E, F, L, M, Nは同一球面上に存在することを示せ。

着眼点

空間図形の内容で, ベクトルを利用する論証問題。“直稜四面体”という四面体を題材とした。

3直線が1点で交わることを示すのだから, まずは

“2直線の交点をベクトル表示する”

ことを考えるのが素直な解法だろうが, 「解答」では一歩進めて, \overrightarrow{OD} , \overrightarrow{OE} , \overrightarrow{OF} , \overrightarrow{OL} , \overrightarrow{OM} , \overrightarrow{ON} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} で表したときの式の対称性などから

3つの線分はそれぞれの中点で交わるのではないか?

と予想し, その予想を証明(◀1)してみよう。

後半も同様に

前半で求めた交点を中心とする同一球面上にあるのではないか?

と予測してみよう。

解答

OA, OB, OC, AB, BC, CAの中点が, それぞれD, E, F, L, M, Nなので

$$\overrightarrow{OD} = \frac{1}{2} \vec{a}$$

$$\overrightarrow{OE} = \frac{1}{2} \vec{b}$$

$$\overrightarrow{OF} = \frac{1}{2} \vec{c}$$

$$\overrightarrow{OL} = \frac{1}{2} \vec{a} + \frac{1}{2} \vec{b}$$

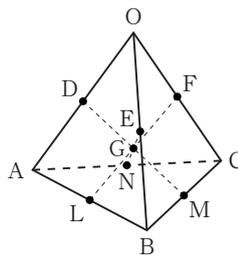
$$\overrightarrow{OM} = \frac{1}{2} \vec{b} + \frac{1}{2} \vec{c}$$

$$\overrightarrow{ON} = \frac{1}{2} \vec{c} + \frac{1}{2} \vec{a}$$

であり, DM, EN, FLの中点をそれぞれG₁, G₂, G₃とすると

$$\overrightarrow{OG_1} = \overrightarrow{OG_2} = \overrightarrow{OG_3} = \frac{1}{4} \vec{a} + \frac{1}{4} \vec{b} + \frac{1}{4} \vec{c}$$

となり, 3直線DM, EN, FLはどの2つも一致することはないので, これら3直線は



◀まず, 各辺の中点を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} で表す。

◀1 各線分の中点で交わることを示すために, 中点のベクトル表示が一致することをいう。

◀ G は四面体 OABC の重心に
他ならない。

◀ 1
点 G が球の中心と予想して
示す。

$$\vec{OG} = \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{1}{4}\vec{c}$$

をみたす 1 点 G で交わる。

(証明終)

次に

$$\vec{DM} = -\frac{1}{2}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{c}$$

$$\vec{EN} = \frac{1}{2}\vec{a} - \frac{1}{2}\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{c}$$

$$\vec{FL} = \frac{1}{2}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} - \frac{1}{2}\vec{c}$$

であり

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = k$$

とおくと

$$\begin{aligned} |\vec{DM}|^2 &= \frac{1}{4}(|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 \\ &\quad - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + 2\vec{b} \cdot \vec{c} - 2\vec{c} \cdot \vec{a}) \\ &= \frac{1}{4}(|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 - 2k) \end{aligned}$$

$$|\vec{EN}|^2 = \frac{1}{4}(|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 - 2k)$$

$$|\vec{FL}|^2 = \frac{1}{4}(|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 - 2k)$$

$$\therefore |\vec{DM}| = |\vec{EN}| = |\vec{FL}|$$

また、点 G は DM, EN, FL の中点なので

$$|\vec{DG}| = |\vec{EG}| = |\vec{FG}| = |\vec{LG}| = |\vec{MG}| = |\vec{NG}|$$

であるから、6 点 D, E, F, L, M, N は G を中心とする同一球面上にある。

(証明終)

解説

1 別解 2 直線の交点を共線条件を用いて求めると……

「解答」では、DM, EN, FL がそれぞれの中点で交わることを見抜いて証明したわけだが、共線条件を利用して交点を求めてみると次のようになる。

直線 DM と EN が交わるとして、その交点を P とすると、P は直線 DM 上の点として

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= (1-s)\vec{OD} + s\vec{OM} = (1-s) \cdot \frac{1}{2}\vec{a} + s\left(\frac{1}{2}\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{c}\right) \\ &= \frac{(1-s)\vec{a} + s\vec{b} + s\vec{c}}{2} \quad (s \text{ は実数}) \end{aligned}$$

また、直線 EN 上の点として

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= (1-t)\vec{OE} + t\vec{ON} = (1-t) \cdot \frac{1}{2}\vec{b} + t\left(\frac{1}{2}\vec{c} + \frac{1}{2}\vec{a}\right) \\ &= \frac{t\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c}}{2} \quad (t \text{ は実数}) \end{aligned}$$

とおけるから、これら 2 式より

$$\frac{(1-s)\vec{a} + s\vec{b} + s\vec{c}}{2} = \frac{t\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c}}{2}$$

$\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ は1次独立だから

$$1-s=t, s=1-t, s=t \quad \therefore s=t=\frac{1}{2}$$

よって、直線 DM と EN は

$$\vec{OP} = \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{1}{4}\vec{c}$$

で表せる点 P で交わる。

すると

$$\vec{FP} = \vec{OP} - \vec{OF} = \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b} - \frac{1}{4}\vec{c}$$

$$\vec{FL} = \vec{OL} - \vec{OF} = \frac{1}{2}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} - \frac{1}{2}\vec{c}$$

より

$$\vec{FP} = \frac{1}{2}\vec{FL}$$

となるので、3点 F, L, P は同一直線上に存在する。

したがって、3直線 DM, EN, FL は1点 P で交わる (P は「解答」の G に一致する)。

2 補足 G について～四面体の重心

3点 $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})$ を頂点とする三角形 ABC の重心 $G(\vec{g})$ が

$$\vec{g} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$$

と表せたのと同様に、空間において $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c}), D(\vec{d})$ を頂点とする四面体 ABCD に対して

$$\vec{g} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{4} \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

で表される点 $G(\vec{g})$ を四面体 ABCD の重心という。

本問では、4つの頂点が O, A, B, C だから、始点を O として重心 G を表示すると

$$\vec{OG} = \frac{\vec{OO} + \vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}}{4} = \frac{\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}}{4}$$

となり、これは「解答」の点 G に他ならない。

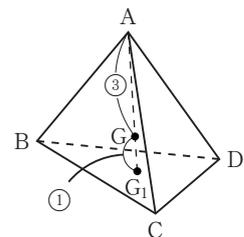
四面体の重心の性質として

(ア)向かい合う2辺の中点を結ぶ3直線は重心 G で交わる
を示したわけだが

(イ)頂点と対面の三角形の重心を結ぶ4直線は重心 G で交わる
などの性質も知られている。

(イ)についても、本問の「解説1」と同様に、交点を求めて証明してもよいが、「交点 = 重心」がわかっているのだから、重心が4直線上にあることを示すのが早い。つまり、 $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c}), D(\vec{d})$ に対して、 $\textcircled{1}$ を $\triangle BCD$ の重心 $G_1(\vec{g}_1)$ と A を結ぶ直線上の点を表すように変形すればよいわけで

$$\vec{g}_1 = \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{3}$$



であるから

$$\begin{aligned}\vec{g} &= \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{4} = \frac{\vec{a} + 3 \cdot \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{3}}{4} \\ &= \frac{\vec{a} + 3\vec{g}_1}{4}\end{aligned}$$

と変形すれば、GはAG₁を3:1に内分する点とわかる。

また、Aを始点として

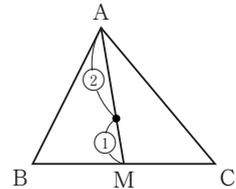
$$\vec{b} = \vec{AB}, \vec{c} = \vec{AC}, \vec{d} = \vec{AD}, \vec{g}_1 = \vec{AG}_1, \vec{g} = \vec{AG}$$

とすれば

$$\vec{g} = \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{4} = \frac{3}{4} \cdot \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{3} = \frac{3}{4} \cdot \vec{g}_1$$

と簡単に処理することもできる。

なお、GがAG₁を3:1に内分するのは、三角形ABCの重心が中線AM(MはBCの中点)を2:1に内分するのに対応している(次元が上がっただけ)。



3 補足 直稜四面体

条件 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a}$ より

$$\vec{a} \cdot (\vec{b} - \vec{c}) = 0, \vec{b} \cdot (\vec{c} - \vec{a}) = 0, \vec{c} \cdot (\vec{a} - \vec{b}) = 0$$

$$\therefore \vec{OA} \cdot \vec{BC} = 0, \vec{OB} \cdot \vec{CA} = 0, \vec{OC} \cdot \vec{AB} = 0$$

すなわち、本問の四面体OABCは

$$OA \perp BC, OB \perp CA, OC \perp AB$$

であり、3組の対辺が垂直という条件をみたすことがわかる。

このような四面体を直稜四面体といい、等面四面体(4つの面がすべて合同な鋭角三角形)と同様に、ときどき入試で題材とされる四面体である。

直稜四面体のもつ性質として

1つの頂点から対面に下ろした垂線の足は、その三角形の垂心

対辺の中点を結ぶ3つの線分は長さが等しい

対辺の長さの2乗の和は3組とも等しい

などが知られている。

